

令和3年度 第2回 学校運営協議会（報告）

日時：令和3年10月28日(木)

午後5時～7時20分

会場：静岡高等学校 応接室

1 開 会

- ・ 校長挨拶
- ・ 日程説明

2 給食見学

3 学校概況説明

(1) 学校経営計画説明（教頭）

- ・ 第1回学校運営協議会にて承認された学校経営計画のイメージ図による説明。
- ・ 本年度の重点目標について具体的な取組の説明。

(2) 学校概要・取組について（教頭）

- ・ 定時制課程の現状と取組について説明
- ・ 中学校からの要望、生徒・保護者からの意見についての説明。
- ・ 全国の定時制課程・通信制課程の現状についての説明。
- ・ 定時制だよりの紹介

4 授業参観

5 協議・意見交換等

(1) 感想

- A 委員： 少人数で生徒が教員にすぐ質問できるような手厚い指導・教育ができています。
県内の定時制高校、定時制生徒が減少している中で、他の高校との差別化や特色を出していけると今後の発展に繋がるのではないかと。
- B 委員： 全日制のような大勢の生徒に対して1人の教員といった教育体制ではなく、少人数で個別指導のような授業風景を見て、本来の教育の形が見えた気がしました。前年より本務教員も増え良い方向に進んできていると思う。
- C 委員： アットホームで生徒がのびのびと生活できる環境づくりは素晴らしい。生徒が“授業を今から受けるんだ”という気持ちをしっかり作って、授業に臨んでいることが見てとれた。長期的にどの方向を目指して指導をしていて、どんな実績が上がっているのかといった評価を何らかの形で確認できると良い。“良い学校”であることをどのようにして中学生や保護者に伝えていけるのかを考えていきたい。考える上では、他の定時制との差別化、静岡高校定時制を目指す動機付けを明確にできると良い。静岡高校定時制が今後どうありたいのか、基本的な方向性が見えにくい。
- D 委員： 本日、登校できているのは33名のうち何名か。
- 教 頭： 30名である。
- D 委員： 昨年度までの課題については、改善・解決されていることが分かった。そういった点では、日々努力されていることが窺える。生徒が静岡高校定時制にどういった理由・目的で来ているのかを見つけられる、また、答えられるような指導をしていただきたい。最近では、高卒者の就職率が見直されて

いるが、大卒、専門学校卒の方が就職しやすいのは当たり前の状況である。生徒が望むのであれば、進学する力を身に付けさせ、大学や専門学校に行ってもらえると企業としては採用しやすいというのが現状である。

- E 委員 : きめ細やかな配慮が行き届いた学校経営をしていると感じた。保護者からも「生徒がのびのびと意欲的に学ぼうとしている姿が見られるようになったことが嬉しい。」といった声が聞けた。楽しくやれていることが1番である。授業参観をしていて姿勢の悪い生徒が気になった。小学校4年生のレベルで躓く子どもが多い現状がある中で、そういった子たちのフォローが手厚くされていて、生徒と教員の間で信頼関係が築けている点が素晴らしい。こういった指導はニーズが高いため、今後の定時制の在り方を考える上で指標になると思う。進学補習を始めたことにより、生徒が専門学校、短期大学、大学に行きたいという希望を見出し、生徒自身が目標に向かっていくという流れを作ることができたのは素晴らしい。今後は、個別最適化が指導において重要になるので、このような取組は継続していきたい。探究活動については、講座ごとに社会との接点を感じられる体験ができるとうよい。
- F 委員 : 定時制高校の様子を見るのは初めてであり、自分の高校時代に定時制の生徒たちとの関わりがあれば、その後の人生で幅のある考えができたのかなと思った。ぜひ、全日制と定時制の生徒が関わることのできる機会を設けてもらえれば、互いにとってプラスになると思う。
- G 委員 : 給食が自校調理で満足感が高い様子が窺える。生徒用ロッカーについては季節の装飾や花の設置があり、心の教育として効果があると思う。また、掲示板については、定時制の情報伝達専用として用意したことで生徒の中にプライドが生まれると思う。授業では、分からないことを分からないと言える環境が作られていることにより、生徒がどんどんアウトプットできるようになっていた。定時制の指導・環境づくりは、管理職と教員、教員同士の良好な関係作りが響いていると感じた。定時制だよりの内容はいいが、第1号が8月30日の発行なのが残念である。

(2) スクール・ポリシーについて (校長)

- ・ 6月の協議会で示したものを抜粋し説明。
- ・ 多くの生徒に入学してもらいたいが、きめ細やかな対応が難しくなるというジレンマの中で、様々な背景をもちながらも学びたいという意思を持つ生徒を支える場所でありたいと考えている。

<意見>

- F 委員 : コミュニケーションを取ることが苦手な生徒が多い。定時制卒業後、社会に出た時に集団の中で生活する力を伸ばしていきたい。
- E 委員 : コミュニケーション能力は重要であるが、コミュニケーション能力の獲得を1番に掲げてしまうと生徒にプレッシャーがかかってしまう。学校生活の中で自立することについて考えることがこの学校の特色であるため、自分自身で発見し、考えて行動した先で人と繋がることのできるという流れができれば。
内閣府が出している地域経済分析システム「RESAS」では日本中の基礎データが集められており、無料で使用できるため探究授業で活用し、正確な根拠を用いて他者に説明するという経験をさせたい。
- C 委員 : ポリシーの策定は、大多数に向けて不変的な価値基準をもって方針を定めていくことである。静岡高校定時制は小さな集団で、個々に差があるのが現状であり、そこにポリシーのような形で方針を当てはめるのは難しく、今の指

導の仕方とそぐわない。個々の教育を充実させようと考えたときに、ポリシーをどのように変化させて適応させるかを考えるべきではないか。

B 委員 : 様々なタイプ、様々なレベルの生徒がいる中で個別指導というのは難しく、多くの指導者が必要になっているのが現状である。実現は簡単ではないが卒業生によるボランティアの活用等も検討すべきではないか。

校 長 : 多様な生徒がいる現在、スクール・ポリシーを策定し、生徒に当てはめることは確かに厳しい部分があり、E 委員がおっしゃったように個別最適化がキーワードになると思う。多様な生徒に対応するという本校の特色をカリキュラム・ポリシーに組み込み策定していきたい。

G 委員 : ポリシーの策定するにあたり“個に応じた〇〇を目指す”というように示せば生徒のあるべき姿や目標が見えてくる。〇〇にはどういったことが入ってくると良いのか。

A 委員 : 校訓を意識した内容になってくると考えやすい。

D 委員 : 生徒個人を意識したポリシーの策定は重要であると思うが、その結果として教員の負担が増えすぎではよくないので、そこは意識してほしい。

G 委員 : ボランティアの活用等について、ある大学では授業の一環として市民団体に入ってブラジル系、フィリピン系の中学生に対する日本語指導の手伝いをしている。制度上、採用するには少し考えなければいけないと思うが、こういった手法もありだと思える。

最後に、今回は授業を1度見ただけで考えた意見であるため、日頃から生徒を見られている先生方には参考程度に捉えていただき、より良い案を考えてもらいたい。

4 閉会・諸連絡

(1) 議事録について

- ・後日、ホームページ等へ議事録を掲載する。

(2) 今後の予定

- ・第3回 令和4年2月上旬